

下京のひびき

市民しんぶん下京区版

7・15

推計人口 男 女
77,215人 35,572人 41,643人
世帯数 41,726世帯
(平成22年6月1日現在)

一緒に考えましょう

新企画

地域の絆

1

最近、地域の絆が昔に比べて弱くなってきていると言われていています。近所同士でもあいさつしない、隣に住んでいる人もよく知らない、という地域もあり、町内会・自治会の加入率も低下しつつあります。

一方で地域の役割の重要性を訴え、子どもの成長や孤独なお年寄りのために、また、災害など、いざというときにために活発に活動している地域もあります。

今私たちは、地域のつながりをどのように考えていけばよいのでしょうか。このコーナーでは、「地域の絆」について、下京区内の状況を様々な角度から紹介し、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

マンション住民と一緒に 祇園祭・保昌山を継承 (豊園学区・燈籠町)

千百余年の伝統を誇る祇園祭・長年、地域の方で支えられてきた山鉾の中で、「保昌山」(燈籠町)では、10年来、新規のマンション住民の方々も参加して祭行事を運営しています。

「旧住民の方々が高齢化し減少する中、マンション住民の皆さんに呼びかけて一緒に支えてもらうことになった」と語るのは保昌山保存会の出島昭男理事長。伝統と格式を重んじる祇園祭において当初は懸念する声もあったそうですが、「今ではすっかり溶け込んで、保存会の役員にも就いていただいている」と感謝されています。

巡行する保昌山とマンション住民の「祇園祭」勉強会



として、祭期間中に売り出す「お符だ」や「お守り」が若い女性に人気。これらはすべて地域の方の手作りで、7月に10日間程、毎日20〜30人が集まって作る。作業しながらワイワイと井戸端会議になるそうです。祭りの作業を通じて新旧住民の皆さんの絆は深まります。

8年前に町内のマンションに越してきて現在保存会役員を務める岩田修さんは語ります。「町内の皆さんは我々を温かく迎えてくれた。これは普段から町内会行事も活発、旧住民さんの一生懸命祭りを支える姿を見ると伝統の重みを感じ、我々も責任感をもつて活動している」。

今年も祇園祭は多くの方々に支えられて高山そして山鉾巡行を迎えます。



新旧 住民の つながり

旧来から地域にお住まいの方々とマンション居住など新しく地域にいられた方々。地域に住むきっかけやライフスタイルなど異なることが多い中で、なかなか接点が見出せないことも。そのような状況の中で、今回は二つのつながりの事例を紹介します。



6月30日地域デビュー! 大型マンションに新たな町内会が誕生 (七条学区・梅小路東町)

6月30日、梅小路東町の新規マンション「イニシア梅小路公園」の住民約200世帯の皆さんが町内会を発足させ、七条学区自治連合会に加入されました。

多様な価値観、世帯構成の方々が集まるマンション。一つにまとめることは容易ではありません。マンションで皆が安心して住むためには、お互いに顔見知りになることは大切。もちろん強制はいけませんが、普段からあいさつなどを通して付き合いを深めてきた」と町内会長の岡田雄さん。

昨年1月の入居開始後徐々に顔見知りの輪を広げながら組織作りが進められ、役員も順番制



イニシア梅小路公園と町内会発足総会

この度の町内会発足の運びとなりました。

町内会役員の方からも「子どものために地域とかかわることは必要」「最初、町内会の必要性は感じなかったが、今では顔見知りの方が住みやすそう」「やるからには楽しみが語られてほしい」と意気込みが語られています。

地元の方々も「今までから新しい住民さんを歓迎してきた。多く入ってくれて嬉しい」(西村為彦学区自治連合会長)、「これから松尾祭など伝統行事にも参加して地域に溶け込んでほしい」(木村清彦学区市協会会長)と喜んでおられます。

であいふれあい町衆のまち
いきいき下京

下京区役所ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/shimogyo/>

市政情報総合案内コールセンター

京都いつでもコール

午前8時〜午後9時

市への問い合わせに年中無休でお答えします。

電話 661-3755 FAX 661-5855

パソコン <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000012821.html>電子メール <http://www.city.kyoto.jp/koho/m/cc/>